

平成27年度 アポイ岳 山トイレの状況報告

坂下 志朗（様似町 商工観光課アポイ岳保全係 係長）
（アポイ岳ファンクラブ）

花の山「アポイ」として名を馳せるアポイ岳の高山植物群落は、1952年（昭和27年）国の特別天然記念物に指定されています。そのアポイ岳に咲く可憐な高山植物を一目見ようと、毎年多くの登山客が訪れます。昭和59年以降は年間1万人以上の登山者が訪れ、平成9年度が14,318人で最高登山者数となっています。それ以降は右下がりの状態が続き、平成27年度（4月～12月）は7,718人と平成9年時と比べて約半数となっています。

平成27年度の月別登山者数を調べてみると、花のハイシーズンの5月中旬～7月までは月平均1,700人弱を超えています。1日の最高登山者数は、高山植物のハイシーズンの6月7日の284人でした。

さて、本題に入りますが、アポイ岳における山トイレの経過ですが、最初は昭和30年後半に林務署の職員用トイレとして5合目に設置しました。

平成4年に登山者から老朽化と不衛生という指摘があって撤去しております。それ以降、アポイ岳にはトイレがない状態が続いていました。

平成4年にトイレを撤去して以降、右肩上がりに年々登山者数が増え、平成9年のピーク時には環境悪化という事態を招いています。その年はヒダカソウの大量盗掘などもあり、地元民間ボランティア団体アポイ岳ファンクラブが発足し、アポイ岳の自然を守ろうということで、トイレ問題についても検討を始めました。

当初は、固定式トイレの設置を想定しましたが、し尿運搬は人員確保ができないため断念。次にバイオトイレに注目しましたが、アポイ岳は電力が通っていないため、その確保が難しいということで断念。

そして携帯トイレに注目し、羅臼岳や利尻岳など先進地視察する中で、アポイ岳に適応できるという判断し、平成25年6月に簡易トイレブースを設置する運びとなり、今年度で3年目を迎えました。

トイレの設置場所についてですが、アポイ岳の山小屋まで1時間10分登った先の5合目山小屋付近に設置しました。

アポイ岳は国定公園の一部であり、北海道が許認可の権限をもっており、色々な法規制の網がかかっている山です。特別保護地区（人的行為が一切許されない地区）と第3種特別地域（多少規制が緩いところ）の境界にトイレブース2箇所を設置しました。

山小屋から下16mに1つ。山小屋から横10mに1つ。1.6m四方内にトイレブースを設置しました。平成27年度はアポイ山ろく山開きに合わせて、4月12日にトイレブース設置作業をしました。

①の写真は、目隠し衝立にトイレブースの案内などを貼り付けて呼びかけております。②の写真がトイレブースの誘導看板です。

③の写真はトイレブーステントの設置作業の様子です。平らところで風があまり当たらない場所を選定し、基礎は杭で固定し、ロープを木にくくりつけ固定し完成です。



さて、設置したトイレブースの管理方法と回収についてですが、平成26年度までは携帯トイレの販売は麓のビジターセンターにおいて1セット500円で販売しました。しかし、登山客が登山する時間帯を考慮し、いつでも購入できるように麓の宿泊施設アポイ山荘や、お客様が多く尋ねる観光案内所で販売してもらいました。このほか、盗掘防止パトロール隊員が登山時に数セット携帯し、登山者に携帯トイレの普及啓発をしております。

トイレブースの管理は、盗掘防止パトロール隊員が登山したついでに、トイレブースの清掃やブース内の携帯トイレの補充を行いました。

使用した携帯トイレは、ビジターセンター横の回収ボックスに捨てるよう設置。回収については、随時ビジターセンター職員が管理しました。

登山口のボードには、携帯トイレ回収ボックス設置場所などの案内を掲示しております。

次に平成27年度のトイレブースの利用状況（図1）です。4月11日のトイレブース設置から10月27日に撤去するまでの数字となっています。登山者数7,390人で、予想数は一昨年のアンケート調査から推測し、登山者の約2割の方が用を足したという結果から、今年の登山者数の2割が用を足したと仮定すると、1,476人となりました。

そのうち、トイレの回収個数は124個。回収率は8.4%に留まりました。あくまでも仮定の数字ですので、正確ではありませんし一概には言えませんが、残り9割の方がトイレブース以外で用を足しとことになります。

昨年の回収率9.4%と比較し、今年は1ポイント減となりました。

参考までにビジターセンターで販売した携帯トイレの数は151個。啓発用配布用として60個を地元の小中学校のアポイ登山の事前学習の際に配布しております。

（図1）平成27年度のトイレブース利用状況

月	登山者数	予想数	回収個数	回収率	H26回収率
4月（12日～）	235	47	2	4.2	—
5月	2,115	423	61	14.4	10.6
6月	1,726	345	26	7.5	10.4
7月	1,354	270	22	8.1	14.0
8月	812	162	12	7.4	8.7
9月	711	142	1	0.7	8.9
10月（～27日）	435	87	—	—	3.9
合計	7,390	1,476	124	8.4	9.4

次に報告書に記載された問題点としては、

- ・ブース内で小便をした跡があった。（臭いもする）
- ・便座が汚れている。
- ・便器に土がついていた。
- ・テントのチャックが開けっ放し。
- ・使用済みトイレが、指定回収場所ではないところに捨てられている。

携帯トイレの普及に向けた課題

1. 普及啓発

【高い認知度一方で、低い所持率&使用率】

登山者にとって自分自身の問題だけでなく、もっと大きなスケール（自然破壊）の問題でもあるという認識を持たせるための合理的説明。

麓の駐車場や登山口など登山者の目に止まる場所に、トイレブースや携帯トイレの案内看板を貼り付け、周知徹底を図る。

携帯トイレのキャンペーン活動やアンケート調査を実施し、登山客の山トイレに対する実態を把握する。

2. 販売促進

【入手の機会を増やし容易にする】

現在はビジターセンター、観光案内所、アポイ山荘（ホテル）にて販売。コンビニなど気軽に誰もが立ち寄る所に携帯トイレの取扱いや登山口での無人（自動）販売の可能性を模索する。

3. 利用環境整備

【今後も簡易トイレブースを継続】

ただ、トイレの維持管理体制の明確化。簡易トイレブースの使用マナーについても、衝立看板やブース内に注意事項を貼付け、意識づけをする。

平成28年度の山トイレに関する取組みは下記のとおりです。

■簡易トイレブースの設置（4年目）

4月中旬の山開きに合わせて設置予定。（期間：4月～10月）

■携帯トイレ普及啓発活動

アポイ岳保全対策協議会で実施している、盗掘防止キャンペーンなどに合わせ、携帯トイレの普及啓発を行う。

また、幼稚園や学校登山（事前学習）での携帯トイレの無料配布、団体ツアー客やエージェント等への周知などを引き続き行う。

■コンビニ等での携帯トイレの販路拡大

現在、ビジターセンターなどで販売しているが、色んな方が立ち寄り目に止まるコンビニなど新たな販路拡大。

今後も、山のトイレ問題への取り組みに対し、このネットワークで情報共有を図りながら、美しい自然を守り育てる活動につなげていきたいと考えています。